岡山市書写教育研究会要項

1　本校研究主題

「言葉を広げ、深め、表現できる子どもの育成」

2　期　日　　平成２５年１０月１０日（木）

3　日　程

13:40	14:00		14:45	15:00		16:05		16:30
受付	公　開　授　業 （３年１組）		移動	開会	研　究　協　議 （図書館）		指導 講評	閉会

4　公開授業

第３学年１組　　指導者　　本校　教諭　田中　春香

単元名　　「　はらい　」

5　指導講評

岡山市立操明小学校　　教諭　宮本　毛登明

6　発表・研究協議

（1）　開会行事

① 開会あいさつ　　岡山市小学校教育研究会書写部会長
岡山市立箕島小学校　　校長　山根　一郎

② 指導助言・役員紹介

指導助言	岡山市立操明小学校	教諭	宮本　毛登明
運営	岡山市立妹尾小学校	教諭	松谷　行洋
司会	岡山市立興除小学校	教諭	岡　　律子
記録	岡山市立福田小学校	教諭	床　　奈央

（2）　研究協議

① 研究の概要　　岡山市立甲浦小学校　　教諭　岡本　千弘
教諭　舟原　磨美

② 授業反省　　岡山市立甲浦小学校　　教諭　田中　春香

③ 協議

（3）　指導助言

岡山市立操明小学校　　教諭　宮本　毛登明

（4）　閉会行事

閉会あいさつ　　岡山市立甲浦小学校　　校長　大塚　仁

研究の取り組み

1　本校の研究主題

言葉を広げ，深め，表現できる子どもの育成

～基礎基本をふまえて，豊かな心を育てる書写書道教育～

2　研究主題について

光南台中学校区の児童・生徒に共通する課題は，「自分で考えて行動することが苦手」「人とコミュニケーションをとりにくい」などである。その課題から，昨年度まで「コミュニケーション力の育成」というテーマで研究を進めてきた。研究を進めるにつれて，児童は自分の思いや考えを表現したいと思うが，その語彙の少なさや伝え方の未熟さで表現できにくいという課題が浮かび上がった。

そこで今年度は，言語に興味をもたせ語彙を増やし語彙力を高め，自分で考えたり，思いをもったりする言語活動の充実を図りたいと考え，「言葉を広げ，深め，表現できる子どもの育成」というテーマを設定した。本校で継続して取り組んでいる ESD などの体験活動や日頃の教科の中で，言語活動の充実を図り，テーマに迫りたいと考える。

児童は体験を通して，自分の思いや考えをもつ。そして，体験を重ね表現することで，友だちと思いや考えを共有することができる。その思いや考えを広めたり深化させていく過程で子どもたち自身の中に言語活動が積み上げられると考える。体験活動の中で，様々な思いを伝え表現し，思いをより深めることによって「言葉が広がる」と考えられる。そして，感想や気づきを友だちと交流させる表現活動をもつことで，さらに言葉が広がると思われる。また，体験活動による感想や気づきを交流し，新たな気づきや思いを，自分の言葉で振り返ることで，「言葉が深まる」と考えられる。また，深まった言葉を自分以外の人によりよく伝えられる言葉にしたり，伝える方法を工夫したりすることによって「表現する」力が育成できると考える。

言語活動の充実は体験活動だけでなく，日頃の教科の中でも工夫して取り入れていくことが重要である。自分の思いや考えをもち，その思いを表現したくなるような場面を授業の中で設定することにより，「言葉が広がる」と考える。また，“読書タイム”を取り入れたり，“すきま読書”をしたりして読書の習慣を身につけ，文字や文に親しませるようにしている。授業では国語辞典を常用し，言葉を深めたり理解したりすることの習慣化を図ることによって児童の語彙力が高まると考える。そして，互いの思いや考えを交流する“学び合い”の場面を授業の中で設定することにより「言葉は深まる」と思われる。学び合いでは，自分の考えをしっかりもち，お互いの思いや考えを理解し合い，尊重し合いながら交流する中で，理解や思考・判断を深め，より豊かな知識を会得していく。そして，系統立てて，くり返し練習することによって，「表現する」力が育成できると考える。

このように豊かな体験活動や日頃の教科において，子どもたちは身につけた豊富な語彙力を使って自分の思いや考えをもち，互いに伝え合う中で，豊かな心が育ち，本校の教育目標である『自ら生き生きと活動する児童の育成』につながると考える。

3　書写学習において

研究テーマをふまえ，本校では，書写学習において４つのことを重視した。

一つ目は，書写の学習環境を整えた。書写の時間の準備や片付けの手順を学校全体で共通理解し，書写学習の１時間の流れを構築し，児童が安心して学習に取り組めるようにした。

二つ目は，段階的に学習できるツールの工夫や練習用紙，系統性を意識した教材を提示することによって，書写の基礎基本が定着するようにした。

三つ目は，書写用語を用いてめあてをつかみ，練習した後，ふり返る活動を取り入れることによって，友達と思いを共有しながら，できるようになったことや難しかったことなどを表現する活動を毎時間取り入れるようにした。

四つ目は，学習が書写の授業の中だけで完結するのではなく，学習したことが他教科や生活に生きるようにした。毛筆による学習で身につけた「点画の書き方」や「字形の整え方」などが，硬筆でも生かされるように，漢字指導，ノート指導，詩や短歌などの作品作り，漢字さがしなど意識して日々の指導を行うようにした。

4　書写学習の流れにおける工夫と支援

（1）めあてをもつ。

・話し合い，考える。
「ためし書き→話し合い→めあてをつかむ」

（2）自分の思いや考えをもちながら練習をする。

・場の設定と練習用紙
練習の場・・・水書コーナー・運筆動画コーナー・点画ピースコーナー
練習用紙・・・籠書・骨書・始筆入り用紙・中心線入り用紙・部分練習の用紙など

・めあての深まり

（3）まとめ書きをする。

・めあてカード確認

・教師と一緒に空書き

・教師の範書

（4）学びをふり返る。

・ふり返りカードによる自己評価

・ほめほめタイムによる他者評価

（5）生活に生かす。

・漢字指導

・ノート指導

・作品作り（詩・はがき・川柳カード・お知らせカードなど）

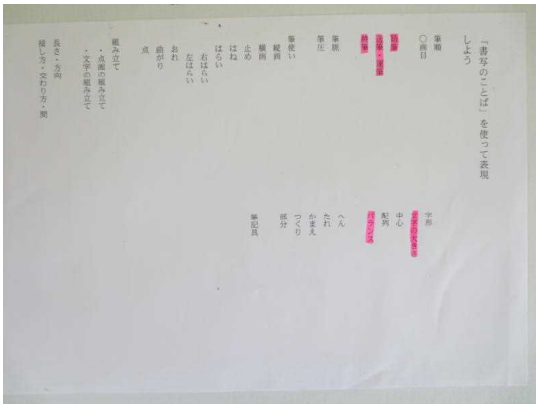
・漢字集め

5　指導の実際

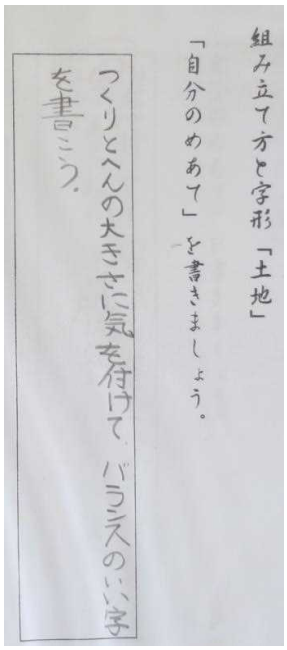
（1）めあてをもつ

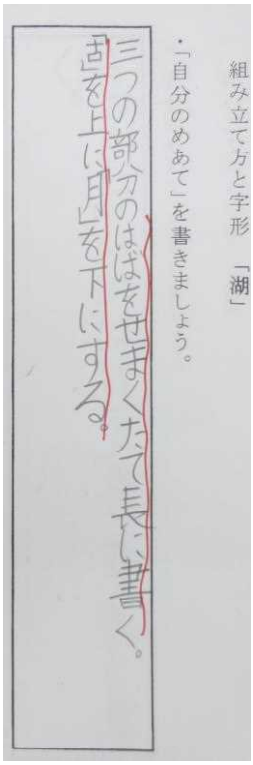
めあての確認と筆順

教師の提示した文字からめあてを考える



筆順・○画目
始筆・送筆・運筆・終筆
筆脈・筆圧
筆使い・縦画・横画
止め・はね
はらい・右はらい・左はらい
おれ・曲がり・点
組み立て
点画の組み立て
文字の組み立て
長さ・方向
接し方・交わり方・間
字形・文字の大きさ・中心
配列・バランス
へん・たれ・かまえ・つくり
部分
筆記具





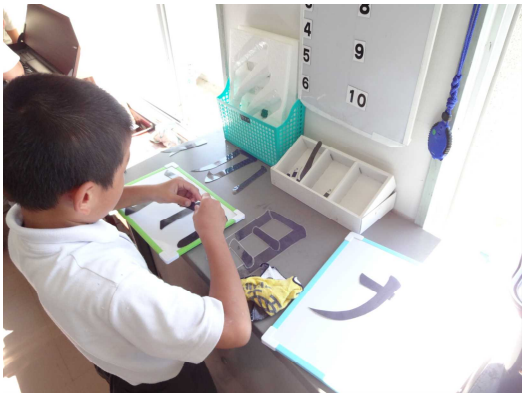
（2）自分の思いや考えをもちながら練習をする。

練習の場

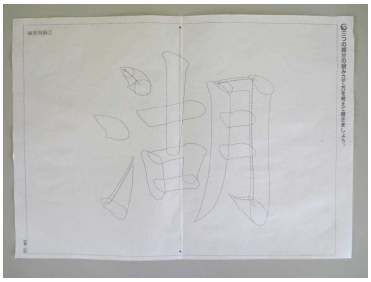
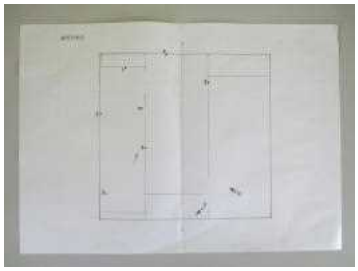
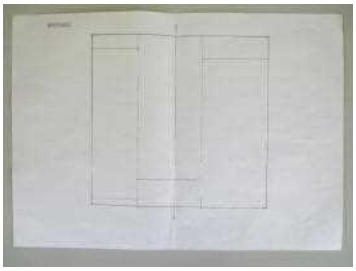
水書コーナー

点画ピースコーナー

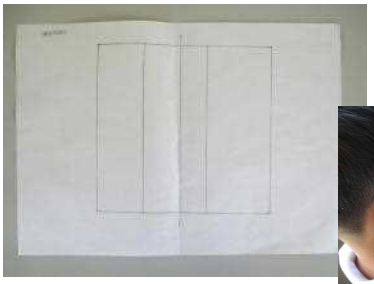
運筆動画コーナー



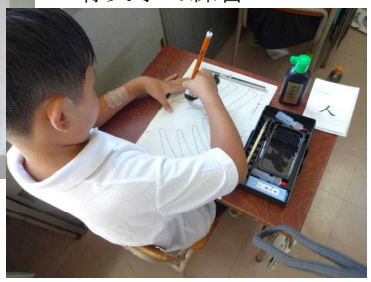
多様な練習用紙

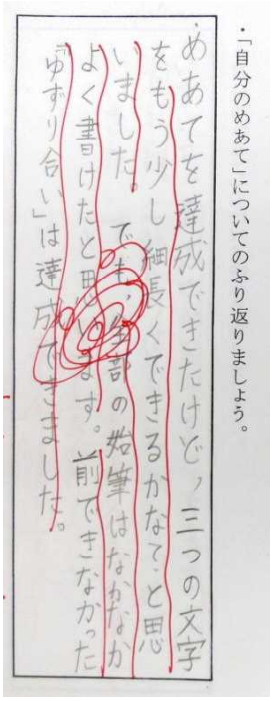




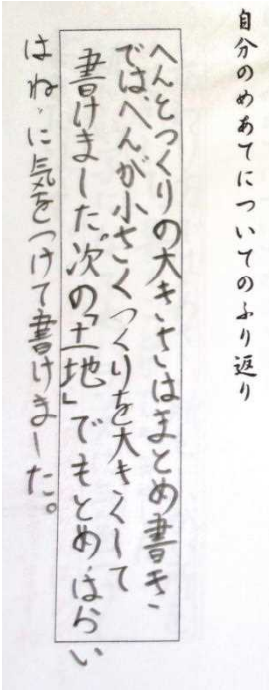
（４）学びをふり返る。（自己評価）



骨文字で練習







（３）まとめ書きをする。

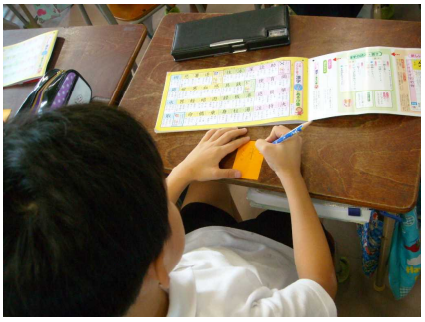
「ほめほめタイム」

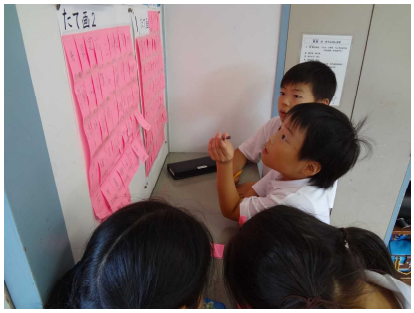
（他者評価）

隣とペアで話し合い

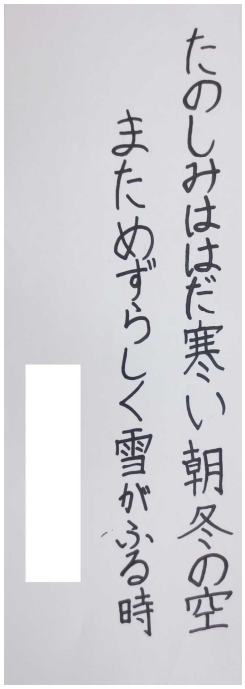
（５）生活にいかす。

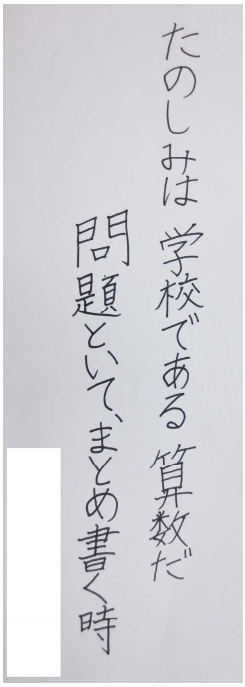
漢字集めコーナー

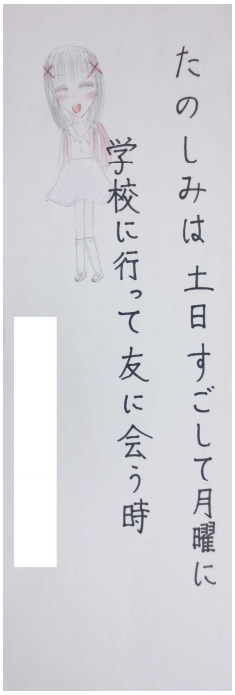


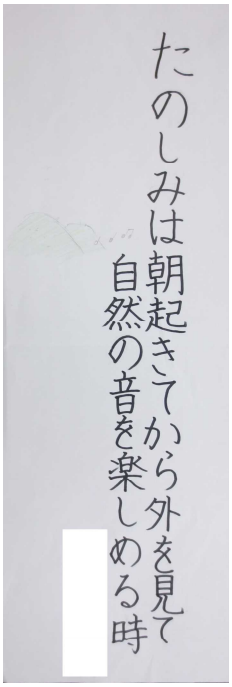


短歌









※教室環境

水書コーナー

書写ニュース

休み時間に練習

第３学年１組　国語科書写（毛筆教材）学習指導案

平成２５年１０月１０日（木）第５校時　　指導者　田中　春香　（３年１組教室）

１　単元・教材名　はらい

２　単元の目標

〇左右のはらいの筆使いと向きの違いに気をつけて，丁寧に書くことができる。

〇日常生活の中で，『はらい』を含む文字を意識し，丁寧に書こうとすることができる。

３　指導計画（全４時間）

第一次「人」

第１時　左はらいと右はらいの筆使いに気をつけて書く。　・・・・・・・・・・・　１時間

第２時　字形に気をつけて丁寧に書く。　・・・・・・・・・・・　１時間

（文字の中心に気をつけ，全体は三角形の形になるように）

第二次「大」

第１時　左右のはらいの向きに気をつけて書く。　・・・・・・・・・・・（本時）

第２時　字形に気をつけて丁寧に書く。　・・・・・・・・・・・　１時間

（一画目の幅より，二・三画目のはらいは少し外へ出るように）

４　単元・教材について

教科書（日本文教出版）における，はらいの練習文字は「人」だけであるが，そのはらいの学習を生かして，発展的に「大」という文字を扱う。

第一次第１時では，左はらいは始筆が強く，右はらいは終筆が強くなっている違いを知り，その筆使いにめあておいて学習する。第２時では，文字の中心を意識させ，始筆の位置，一画目と二画目の交わるところについて指導し，文字全体は三角形の形であることを意識して「人」の字のまとめの学習をする。第一次の終わり頃から，既習の漢字の中で『はらい』を含む漢字を探す活動を自主学習として行い，書写で学習した内容を日常で使っている漢字に照らし合わせて，学習内容のつながりや深まりをもたせることができるようにしたい。

第二次第１時では，漢字集めを踏まえて「大」の字へ学習を発展させ，同じような『はらい』でも，送筆に違いがあることに気づかせ，「大」の二画目に特に注目して学習する。第２時では，全体のバランスを考えて，一画目の幅より，二・三画目のはらいが少し外へ出るとよいことめあてとしてつかませ，「大」の字のまとめの学習をする。

第二次の学習と『はらい』を含む漢字集めの活動の２つを通して，『はらい』といってもさまざまな向きや長さがあることに気づかせ，日常生活の中で漢字を書くときに『はらい』に気をつけて書くように意識付けができるようにしたい。

5　児童の実態

筆を使うことが初めてなので，姿勢や道具の出し入れに慣れるところから学習を始めた。これまで始筆と終筆に気をつけながら『横画』（一，二）をゆっくり丁寧に書き，そして，『たて画』（下，川）と『おれ』（日，目）を学習してきた。

練習を重ねるうちに，まとめ書きでは，一人一人がめあてを意識して書くことができはじめた。また，自分と友達のがんばりを認め合う活動時間を設定したことで，苦労したところを共感したり，自分では思わなかった所を褒めてもらう嬉しさや，がんばりを認めてもらう喜びを感じたりすることが増えてきた。

しかし，書写の用語の定着が十分ではない児童，用語は理解していてもそれを使ってうまく表現できない児童，友達に話したり，友達から聞いたりすることがとにかく恥ずかしいという児童も多くいる。まずは「一つの用語を使って一言発表すればよい」というところから指導をスタートして，経験を増やし，自信をつけさせていきたい。

学習後の漢字集めの活動は，どの児童も楽しみながら行い，書写で学習した内容を振り返ることができている。一人でたくさん見つける児童には，まだ見つけていない友達に教えてあげるよう促し，全員参加の共有体験として広がりや深まりが出るようにしたい。普段の宿題や授業ノートの文字についても，少しずつ丁寧に書く意識は高まってきているが，まだ十分でなく，急いで書こうとするために字形が乱れる児童が多いので，声かけや振り返りを繰り返し行いたい。

6　研究主題に迫るための手立て

本校の研究のテーマ「言葉をひろげ，深め，表現できる児童の育成をめざして～基礎基本をふまえて，豊かな心を育てる書写書道教育～」に迫るための手立てを，本時や単元の中，普段の授業の中に以下のように考えた。

①書写の基礎基本の定着のために

３年生の毛筆学習は，これからの毛筆学習にとってどれも基本となる。上学年では，へんとつくりの組み立て，文字の外形の変化など，学習がより発展していく。基本の技能をしっかり身に付けておかないと，上学年ではそれらの練習の時間はあまりなく，発展的な学習を進めていくときに困難になることが予想された。

そこで，３年生のこの時期に，基本の技能について繰り返し練習することが大事であると考えた。本単元の『はらい』では，同じ文字で４時間学習するのではなく，「人」と「大」を扱うことによって，繰り返し，飽きることなく『はらい』の練習ができるようにした。

休み時間にも手軽に毛筆にふれることができるように，教室に水書コーナーを設けることにした。水書であれば，墨で半紙に書くときよりも緊張がほぐれ，どの児童ものびのびと取り組むことができている。各自で何度も好きなだけ練習したり，書写で学習したことを振り返って書いたりすることで，日常的に筆に親しみ，自然と練習量が増え，基本の技能の定着につながると考えている。

②書写の用語の理解と定着のために

書写の学習で使う用語の意味を視覚で分かるように教室内に掲示して，いつでも見て振り返ることができるようにした。また，教師の説明や指導の中で，さらには子ども達自身が本時のめあてを考える場面，振り返りをする場面で，実際に用語を使っていくことを大切にしていきたい。用語を常に振り返り，繰り返し使っていくことで，その理解が確実になり，定着につながると考えている。

③書写で学習した内容を深めるために

単元構成を『たて画』（下→川），『おれ』（日→目）というように工夫したことで，練習回数が増えるだけでなく，学習の中で自然と，文字の中の似ているところや違うところを見つけ，意識して書くことができるようにした。さらに，『たて画』『おれ』『はらい』についての単元の学習を踏まえて，さまざまな漢字探しを行わせることによって，学習内容について広がりと深まりをもたせ，日常生活に活かしやすくした。

本単元の『はらい』については，同じ『はらい』でも向きや長さに違いがあり，その違いを知ることによって，文字のことや『はらい』について，より深く理解できるということである。そして，日常で『はらい』を書くときの意識を高めることにつなげていきたい。

④表現力をつけるために

本時のまとめの時間では，まず自分の振り返りをカードに書き，それをペアの友達に伝える活動をする。振り返りカードには，本時のめあてを◎○△で自己評価をし，目で見て自分のがんばりが確かめられるようにする。そして，書写の用語の掲示はもちろんのこと，前時までの児童のよい発言を掲示しておくことで，書写の用語を意識させ，相手に具体的に分かりやすく伝えられるようにしたい。その後，友達のがんばりについても伝え合うことにより，豊かに表現できるようにするとともに，褒めてもらえた嬉しさや達成感が味わえるようにした。

自分の言葉で伝えることが苦手な児童は，友達の話をしっかり聞き，その言葉を復唱したり，掲示のコメントをヒントにして言い換えたりして，まずは経験を積めるようにする。そうすることで，自分の言葉で伝えることができるようになると考える。

⑤共通の体験を普段の授業に活かすために

書写の時間に成功した体験や苦労した体験を通して，同じような振り返りをしている児童は多い。そこで使われる言葉は，共通の体験を通してこそ共感できる言葉であり，真に理解できる言葉であると考える。

書写で学習した内容・理解した言葉が，振り返りカードと漢字集めの活動を通して，目に見える形で，まずは知識として定着・蓄積することができるようにした。そして，普段の国語の授業で新出漢字を学習する際，『はらい』を含む漢字があれば，書写の学習内容を振り返りながら，蓄えた知識や技能を活用する意識を高めさせ，学習に取り組めるようにさせた。

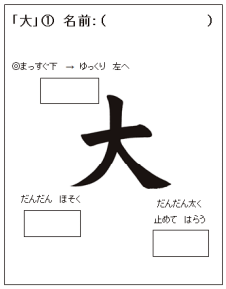
「自分の思いをもつ→書く→話す→聞く→思いの共有」というサイクルを他の授業でも同じように実践していくことで，子ども達は安心して学習に取り組み，自分を表現したり，自信をもったりすることができると考える。さらに，思いの共有を通して『ちがいを認め合い支え合う人間関係づくり』にもつなげていきたい。

7　評価の規準

・各時間のめあてに気をつけて書こうとしている。　【関心・意欲・態度】
・「人」から「大」へ学習内容のつながりを意識して取り組み，硬筆で既習の漢字を書くときに，はらいのポイントに気をつけて書くことができる。　【思考・判断・表現】
・左右のはらいの筆使い(筆圧)の違いに気をつけて，書くことができる。また，字形に気をつけて書くことができる。　【技能】
・左右のはらいの筆使い(筆圧)の違い，「人」と「大」のはらいの向き(送筆)の違いを理解している。　【知識・理解】

8　本時案

本時の目標	「人」と「大」のはらいの向き(送筆)の違いを理解して，「大」を書く。	
学習活動	学習活動に関する支援（波線は研究との関連）	評価規準（◎は重点）
1　本時に学習する「大」のためし書きをする。 （５分）	○漢字集めコーナーからいくつか『はらい』の文字を例示し，その中から本時は「大」を書くことを知らせる。 ○「人」の字で学習した左右のはらいの筆圧の違いについて，黒板に掲示して意識させながら，ためし書きができるようにする。 （左はらい）だんだん細く （右はらい）だんだん太く，止めてはらう 本時でもまとめの時間に振り返ることを知らせておく。 ○ためし書きが済んだ児童には，「人」と「大」では同じはらいでも何が違うか，参考手本を見比べながら考えるように促す。	
2　本時のめあてをつかむ。 （１０分）	○「人」の文字に横画を足して「大」と見比べさせ，具体的にどこが違うか考えさせる。	○ 本時のめあてを自ら考えようとしている。（関心・意欲・態度）
	○「人」と「大」の点画ピースを用いて，左右のはらいの画を重ねて見せることによって比較させ，送筆の違	○「人」と「大」のはらいの向き(送筆)の

	いに気づかせる。 ○児童の発言をつなげたり，ふくらませたり，範書で確認しながら，掲示してある書写の用語を使って整理し，めあての具体的内容に迫る。 ・二画目の左はらいは，送筆で一画目と交わるところまでは真っ直ぐ下に筆を運び，そこから少しずつなめらかに左へはらうと良い。 ○「まっすぐ下→ゆっくり左へ」という児童に短く分かりやすい言葉で具体的なめあてを知らせ，本時のまとめで振り返ることを知らせておく。	違いを理解している。（知識・理解）
3　練習をする。 （１５分）	○基本的な姿勢（背筋，手の位置，筆の持ち方など）について適宜声かけをし，いつも意識できるようにする。 ○左はらいの練習用紙，右はらいの練習用紙，かご文字の用紙，一画目だけが書かれた用紙を用意し，段階的に練習できるようにする。 ○「人」と「大」の点画ピースを用意し，はらいの向きの違いを手で操作して確かめられるようにする。 ○「大」を書いている動画をテレビで繰り返し流して紹介することで，書くときのイメージをもちやすくする。 ○机間指導で，児童の様子を見ながらよくできているところを称揚したり，めあてや練習方法についての助言をしたりする。	○めあてを意識して練習に取り組んでいる。（関心・意欲・態度）
4　まとめ書きをする。 （5分）	○まとめ書きには，練習の時に用いた一画目だけが書かれた用紙を使うことで，本時の『はらい』のめあてに集中して取り組めるようにする。 ○まとめ書きの前に「大」の空書きを児童と一緒に行い，姿勢，書く速さ，本時のめあてをもう一度振り返らせることで，めあての意識が高められるようにする。	◎「人」とのはらいの向き（送筆）の違いに気をつけてまとめ書きをしている。（技能）
5　本時のまとめをする。 （１０分）	○振り返りカードの３つのポイントに，できたかどうか丸を書いて振り返らせる。 ＜３つのポイント＞ 本時のめあて…まっすぐ下→なめらかに左へ 前時まで　（左はらい）だんだん細く の復習　（右はらい）だんだん太く，止めてはらう ◎…よくできた，○…意識はできた，△…あまりできなかった ○ペアで振り返りを行い，本時の作品で良くなったところや，めあてでよく気をつけているところなどを１つ以上伝え合わせることで，お互いに達成感や満足感を味わえるようにする。 ○本時で難しかったところや苦労したところなども伝え合わせることで，今後の授業や日常で意識したい課題を見つけられるようにする。 ○ペアの振り返りで多く出てきた言葉を全体に伝え，挙手で確認することで，個々の思いを全体で共有できるようにする。	 ○ 自分や友達の良いところを進んで見つけようとしている。（関心・意欲・態度） ◎書写の用語を使いながら，相手に分かりやすく伝えることができる。（思考・判断・表現）